

I: 講義概要、ミクロ経済学の位置づけ

ミクロ経済入門・ミクロ経済学の考え方
赤井伸郎

本資料は、この講義の前任者である室岡先生の資料をベース
に加筆修正したものである。

講師の紹介

- ・ 赤井 伸郎 (あかい のぶお)
- ・ 所属: 大阪大学大学院国際公共政策研究科
- ・ 研究分野: 経済学、公共経済学
- ・ HP <http://akainobuo.starfree.jp/home.html>
- ・ WIKI <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B5%A4%E4%BA%95%E4%BC%B8%E9%83%8E>

講義形式

- ・ 開講時間：月曜2限
 - ・ 注：法学部生は「ミクロ経済入門」、他学部生は全学共通教育科目「ミクロ経済学の考え方」として履修すること。なお、他学部生が「ミクロ経済入門」として本講義を履修登録することはできない。
- ・ 成績評価：期末試験をベースに採点する。出席点は取らない、何度かレポートの提出を求める。(講義内で告知) レポートは、最終試験で合格ラインに届かない場合に、加点对象とする。
 - ・ (成績評価を含む) 内容変更がある場合、講義で伝達し、シラバスを優越する。
- ・ 講義中の携帯電話の使用(撮影等も含む)、食事、その他講義への集中を妨げる行為は禁止する。水分補給は許可。

講義概要

- 本科目は対面形式で行う。
- 講義日程は、日程表に従うが、休講時には、事前の講義内およびCLEで周知する。
- 講義資料は、授業開始時まで、CLEまたは、HPの授業ページにアップロードする。
- <http://akainobuo.starfree.jp/micro.html>

学習方法および質問タイム

- ・ 事前学習は不要だが、復習はすぐに行い、わからない場合は、早め（次回講義時）に、教員またはTAに質問をすることが望ましい。
- ・ 質問タイムは、授業終了時とする。教員またはTAに質問をする。
- ・ 本講義は、（講義内容に関する限り）どんな質問でも歓迎します。少しでも疑問に思ったことがあれば、講義中に質問してください。
- ・ 「質問、わからないところ」だけでなく、「気になったところ、こう考えたらどうなるのだろうか?」といったコメントも大歓迎。説明ミスがある可能性もあります。「講義外」の質問よりも、講義時間中の質問により、他の参加学生も学ぶことができます。

高校迄と大学の「教科書」の意味の違い

- ・ 高校迄とは異なり、大学の各講義では「教科書」を1ページずつ順に読み進めていく形で行わない授業も多い。
 - ・ これは、高校迄は学習指導要領に基づき定められた「勉強」、大学（及び大学院）では「学問」を学ぶことが目的のため。
- ・ 本講義では、講義スライド（及び授業中の板書）が、高校迄におけるいわゆる「教科書」に相当する。

• なお、本講義の大部分は、以下の教科書に沿っているので、希望者は参考に購入するのもおすすめである。

• (準教科書) 「**ミクロ経済学入門**」西村和雄(岩波書店)

本講義で用いる図表は、この教科書から一部抜粋している。

• その他参考図書

• 『**スティグリッツ ミクロ経済学 第4版**』

• 世界的に定評のある、初級レベルまでのミクロ経済学のトピックを網羅した本(スティグリッツは2001年にノーベル経済学賞を受賞)。

• 尾山大輔、安田洋祐『**改訂版 経済学で出る数学**』

• 入門～初級レベルの経済数学を、高校数学から丁寧かつ平易にカバーしている。本科目の数学を用いた分析の復習・練習に最適。

その他参考図書 続き

- ・ 伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』（読むエコ）有斐閣
 - ・ 数式やグラフを一切使わず、読み物としてマイクロ経済の入門的概念を纏めている。
 - ・ 高校生でも独学で読めるよう書かれている。「マイクロ経済学とは何か」を文章でつかみたい人向け。
- ・ 安藤至大『マイクロ経済学の第一歩』有斐閣
 - ・ 「とりあえず目を通しておくとその後の勉強が楽になるような」気軽に読み進められる入門レベルの教科書。本科目の講義内容が難しすぎると感じる人向け。
- ・ 八田達夫『マイクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社
 - ・ 入門・初級レベルの教科書。本講義の内容を（特に日本の経済・政策について）補完するのに良い。
- ・ ハル・ヴァリアン『入門マイクロ経済学 第9版』勁草書房
- ・ 神取道宏『マイクロ経済学のカ』& 『マイクロ経済学の技』ともに日本評論社
 - ・ どちらも学部中級レベルを広くカバーしている。2冊とも、本講義だけでなく、中級レベルのマイクロ経済学・ゲーム理論の講義・公務員試験・大学院入試対策など、学部卒業までずっと参照可能。
 - ・ この2冊では、本講義よりハイレベルなトピックも数多く扱っていることに注意！本講義のために通読する必要はない。本講義の内容をより厳密に理解したい人向け。

ティーチングアシスタント (TA)

- ティーチングアシスタント (TA) とは、講義の教育効果を高めるため、大学院生が講義補助を行う制度のこと。
- TA: 阿部洋輔 (Yosuke Abe)
 - 大阪大学大学院 国際公共政策研究科
 - 博士前期課程 比較公共政策専攻 2年
- TAは、講義準備、レポートの提出確認、質問への対応を主に担当する。

メールの送り方について

- 基本的にはメールよりも、講義中に質問する方が望ましい。
- どうしてもメールを送る際は、以下のマナーは最低限守るように！特に、以下の三点が守られていないメールについては、内容を確認せず削除対象となる可能性があるため注意。
 - できる限り大学のメールアドレス (…@ecs.osaka-u.ac.jp) から送る。特に携帯のアカウントは厳禁。Line, Facebook, Twitter等からの連絡も、もちろん厳禁。
 - メール「件名欄」には、伝えたい内容が容易に推測できる事を書く(氏名等の個人情報には入れない)。
 - メールに、ファイル等の添付はしない(講師からの返信で指示がある場合を除く)。
 - 「本文の最初」に、必ず履修科目名・学部・学科・学年・氏名を書く。
 - 以下の『メールを書くときにはここに注意』をぜひ一度参照すること
<http://user.keio.ac.jp/~matsuoka/maillsample.htm>

蛇足：大学生として、すぐに身につけた方がよい技能

・ タッチ・タイピング（ブラインドタッチ）

- ・ レポート等の作成時間が大幅に違ってくる。また、これが身につけていないと、社会に出てからパソコンを使った作業がまともに回らない。
- ・ 1日5分を1ヶ月ほど練習すれば、最低限は身につくはず。
- ・ 関連して、ノートパソコンを手に入れることを強く推奨する。なお、大阪大学の学生は、Word, Excel, Powerpointなどが入ったMicrosoft Officeが無料でダウンロード可能（詳しくはマイハンドイ内の「MSソフト」から確認のこと）

・ メールの送り方

- ・ 1つ前のスライドを参照！

・ ネット及びSNS（LINE、Twitter、Instagram、Facebook等）のリテラシー

- ・ よく言われる「ネットは匿名だから怖い」は逆。匿名・偽名の投稿であろうと、友人のみ閲覧可能（鍵付き）の設定であろうと、個人が特定される事は起こりうる。
- ・ 当たり前だが、公で言えないようなことは、ネットやSNSでも書かない。たとえ冗談等であっても、犯罪その他が想起されうることは一切書かない。

単位取得について

- 期末試験の成績不良者に対する救済はない。特に、留年・就職内定辞退・留学等は救済の理由には一切ならない。
- 法学部国際公共政策学科の学生は、この講義は**必修(=卒業までに単位が取れないと自動的に留年)**のため注意!
- 日本語が母語でないため心配、この科目の単位を今年度取れないと留年する、など特別に心配な事情がある場合は、勉強方法に関する相談には応じるため、早めにOHに相談に来ること。
- その他の注意事項について、CLEにアップロードする『受講・試験・成績評価についての注意』を必ず読んでおくこと。

補論：他の講義科目との関連（1/2）

- ・ 国際公共政策学科の経済系科目（データ分析・政策評価・政策分析などを含む）では、基礎的な科目の既習を、より発展的な講義科目を履修するための要件としている。
- ・ 基礎科目一覧は以下の通り（開講学期は年度により異なることに注意）：
 - ・ 特に履修を優先してほしい経済系基礎科目は太字で表記している。

国際公共政策学科	春学期	夏学期	秋学期	冬学期
学部1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ入門（本講義） ・ 社会科学のための確率統計（全学共通） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ入門（本講義） ・ 社会科学のための確率統計（全学共通） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ入門 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ入門
学部2年以降	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科学のための数学（週2コマ） ・ 計量経済学I ・ ゲーム理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ経済学（週2コマ） ・ 計量経済学I ・ ゲーム理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学 ・ Data Management（英語） ・ 計量経済学II 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学 ・ Data Management（英語） ・ 計量経済学II

補論：他の講義科目との関連(2/2)

- ・ これら基礎科目及び発展科目には履修要件がある。例として：
 - ・ ミクロ経済学の履修は、ミクロ入門および社会科学のための数学の同時履修または既習が要件。
 - ・ 計量経済学Iの履修は、社会科学のための数学およびミクロ経済学の同時履修または既習が要件。
 - ・ また、社会科学のための確率統計(全学共通教育科目)の内容も前提とする。
 - ・ 国際経済学・開発経済学・労働経済学等の発展科目の履修は、ミクロ経済学および計量経済学Iの(科目によってはそれ以外も)既習が要件。

補論:「学歴」について(1/2)

- ・日本ではよく誤用されるが、国際的には一般に「学歴」とは「最終学位」を指す。
 - ・「学部に入学した際の偏差値」ではないことに注意!
- ・特に欧州の官学では、最終学歴が学部卒だと(学部の校名に関わらず)パートナー・交渉相手として低く見られてしまう。
 - ・国際機関や国際協力に興味がある新入生は、最低でも修士号は取るつもりで将来のキャリアを考えることを強く推奨する。

補論:「学歴」について(2/2)

- 大阪大学法学部では、平成29年度から早期卒業制度を導入！
 - 成績が優秀な学生は、通常より1年早く学士号を取得し、大阪大学の国際公共政策研究科・法学研究科・法科大学院に進学することが可能。
 - つまり、通算5年で修士号まで取得できる！学術研究はもちろんのこと、国際機関や国外での仕事の機会を考慮に入れている法学部新入生におすすめ。
 - 1年次の冬に「早期卒業希望願」の提出が必須。詳しくは法学部の教務係まで。
- また、早期卒業制度とは別に、学部4年次に大学院科目の科目等履修を行うことにより、学部入学から通算5年で大阪大学国際公共政策研究科の修士号を取得することも可能。詳しくは国際公共政策研究科の教務係まで。

ミクロ経済学の位置づけ

ミクロ経済入門・ミクロ経済学の考え方
赤井伸郎

本資料は、この講義の前任者である室岡先生の資料を
ベースに加筆修正したものである。

17

ミクロ経済学とは何か？

- ・ 実は、人によって答えは結構異なる。
 - ・ 【古くからある定義】個々の経済主体（家計、企業等）が取引を行う市場において、誰が何をどう生産・消費するかを分析する資源配分の理論。
 - ・ 家計と企業の意思決定に焦点を当てるとともに、特定産業の価格や生産の詳細な分析を行う。
 - ・ 【インセンティブの理論&ゲーム理論を踏まえた最近の定義】人間行動を分析するための（一つの）「文法」。

具体的には、どんな事を学ぶの？

- ・「インセンティブ」に基づいて行動するとは？
- ・「機会費用」とは何か？どう日々の生活に関わっているのか？
- ・消費者の行動はどう統一的に分析できるのか？
- ・企業の行動はどう統一的に分析できるのか？
- ・市場の「均衡」とはなにか？
- ・こういった時に市場はうまく機能するのか？
- ・その問題をどう評価するのか
- ・「戦略的関係」とは？どう分析するのか？

分析の(大雑把な)種類

- ・ 事実解明的な分析
 - ・ 各個人が自分の好みに基づき「合理的に」行動した場合、どのような「結果」が起こるのか？
 - ・ (例: 価格、生産量、利潤、労働時間、賃金、大気汚染の量、技術革新、…)
- ・ 規範的な分析
 - ・ ある「基準」を前提とすると、どのような「結果」が望ましいのか？
 - ・ (例: 世代間・地域間・所得間における機会の均等性、平等性、効率性、…)

具体的には、どのように役に立つの？

- ・「ベンチマーク」としての理論の役割
 - ・ある特定の要因が、社会にどのような結果をもたらすか
 - ・興味がある「特定の要因」に注目するため、それ以外の要素はしばしば単純化して分析する。『縮尺1/1ですべての情報が入った地図は、作れないし、理解しにくい』
- ・政策への応用
 - ・租税政策、公共政策（環境規制、労働政策、社会保障政策）
 - ・（ミクロ経済理論をもとに）政策の効果を、論理的に理解し、議論することが役立つ。